

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2022.1

vol.189



新年明けまして
おめでとうございます。

院長 田中 康博

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。新型コロナウイルス感染症流行が始まり、約2年経過しようとしています。鹿児島医療センターも様々な計画が変更を強いられ、新型コロナウイルス感染症一色の長いトンネルに入ってしまいました。この国難を乗り越えるために、誠心誠意対応してきました。幸いにも少し落ちついていた鹿児島もオミクロン株の出現で第6波に見舞われる事になるのでしょうか。まだまだ油断できません。ただ、明けない夜はありません。コロナ後の医療はどうあるべきか、模索しているところです。私どもも自分たちが行っている医療を見直し、初心に戻り真面目に医療に取り組んでいこうと決意を新たにしています。

コロナ禍、様々な健診や受診控えが問題になっております。当院でも同様の事が起きており、心肺停止状態で搬入される患者さんや、がんが進行してから初診となる患者さんの増加が目立ちます。「コロナ禍でもがん・脳卒中・心臓病はまってくれない～コロナ禍でもきちんと受診しましょう～」というテーマで2021年12月11日、久しぶりに市民公開講座を行いました。予想以上に多くの住民の方々が参加してくださいました。当院もまる2年、このような住民の方々と病気について一緒に考えるイベントを控えておりましたが、このような企画を待っている方も多いと感じたところです。なお、この時の市民公開講座の内容は当院のホームページで閲覧可能です。鹿児島の医療を高めるため、良い医療とは何かを考える時間は重要です。この事業も重点課題の一つとして今後も努力して参ります。平常時は「がん」「脳卒中」「心臓大血管」がそれぞれに毎年市民公開講座を開催しています。今年も例年通りの開催で、興味あるテーマを選択できるようにしたいと思います。

今年も「がん 脳卒中 心臓大血管」を3本柱とし、さらに糖尿病・腎臓・眼科・歯科口腔外科など様々な合併症を有する患者さんにも対応できる施設を目指していきます。医療の発達とともに、以前では治らない、治せないと言われた病気が治る、寛解する時代になってきました。低侵襲的外科手術も増えてきました。最新の医療が最良の医療になるとは限りませんが、患者さんにとって選択肢が増えたことは朗報です。一方、病気との付き合いが長期にわたる事にもなります。病気のケアのみならず、精神的、心理的、経済的支援も同時に行わなくてはなりません。治療と仕事(日常)の両立支援の相談窓口も準備しています。患者さんと一緒に納得できる継続可能な治療方針を決めて行きたいと思っています。各診療科の新たな試みと実績はホームページ等をご参照ください。

各医療機関との連携をより深め、患者さんとご家族が安心できるシステムを構築していきますし、様々な疾患に迅速に対応できる体制をとって行きたいと思っています。病院建屋が少し古くなりましたが、今までの実績に裏付けられた伝統と信頼を誇りに思い、良い医療を皆様提供したいと思っています。

幹部年賀状



副院長
中島 均

明けましておめでとうございます。
 先ずは昨年2月10日に発生した院内クラスターにおいて皆様方に多大なご迷惑おかけしたこと、誠に申し訳なく思っております。
 当時を振り返りますと、建国記念の日(2月11日)の緊急対策会議から3月29日の全面診療再開までの47日間あっという間でありまた長い期間でした。そもそもまさか自分の病院が?ということから始まったのですが、後はあれよ あれよという間にDMATの皆さん、鹿児島県感染症支援チームの皆様の御支援のもと連日対策を行い、2月24日には厚生労働省クラスター対策班の御協力もいただきながらほぼ順調?に感染防御に強い病院に生まれ変わっていきました。
 今振り返れば患者さまはもちろん、当院をサポートして下さる皆様の多大な御支援あったればこそこの診療再開であったと思います。この場を借りて厚く御礼申し上げます。この経験を生かして感染症にもピクともしない病院を目指していきたいと思っております。今年もどうか引き続きの御支援のほど何卒よろしく申し上げます。
 最後に皆様のご多幸をお祈りして新年のご挨拶とさせていただきます。



統括診療部長
松崎 勉

明けましておめでとうございます。
 昨年もがん診療連携、緩和ケア連携等、当院がん診療部門におきましても大変お世話になり有難うございました。本年も引き続きご指導の程宜しくお願い申し上げます。
 昨年を振り返るときに、2月から3月にかけて発生した当院のクラスターに関する問題は避けて通れません。がん部門では、“コロナ禍における「がん」早期発見のポイント!”を市民公開講座として、現在、当院ホームページに公開しております。各診療科が担当する疾患についてその要点を概説しており、南九州病院、相良病院からも肺がん、乳がんのポイントを動画で分かりやすく説明していただいております。コロナ禍でがん検診控え、受診控えが問題となっておりますが、各医療機関、施設の方々と連携してがんの早期発見、早期治療に努めていければと思っております。その上でも、前述の当院のクラスターは診療休止を余儀なくされ、患者さん各施設のスタッフの皆様にご迷惑お詫び申し上げます。
 自己決定支援、アドバンス・ケア・プランニングの推進とコロナ禍の中でなかなか前進できていない課題も多い中です。コロナ禍での失職など、がん患者さんを取り巻く環境は厳しさを増しているのも現状かと思えます。就労支援や治療と仕事の両立支援などをさらに推進し、患者さんをサポートする体制を整えながら、連携の強化に取り組む一年としていきたいと思っております。
 本年も、どうぞ宜しくお願い致します。



臨床研究部長
城ヶ崎 倫久

明けましておめでとうございます。
 さて、昨年は新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でした。その中でワクチン接種については、ブレークスルー現象はあったものの、重症化を抑制できた点で目を見張るものがありました。厚生労働省のホームページには「医療従事者等の方は、個人のリスク軽減に加え、医療提供体制の確保の観点から接種が望まれますが、最終的には接種は個人の判断です」と書かれています。2020年2月の時点で、新しいmRNAワクチンを国民に接種するにあたって、日本人の安全性情報を速やかに取得する必要がありました。鹿児島医療センターは国立病院機構の病院としてワクチン先行接種のコホート調査に参加しました。252人の当院職員に参加してもらい、免疫惹起に伴う発熱、倦怠感などの副反応疑いの情報を治験並みの精度で収集し、日本全体のワクチン接種の先駆けとして情報提供することができたと思っております。臨床研究部としてこのコホート研究の遂行に役割を果たすことができ、新型コロナワクチンの安全性に対する国民の理解を得るための礎になることができたと思っております。
 今年もよろしくお願い致します。



メディカルサポート
センター長 兼
地域医療連携室室長
園田 正浩

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、当院で発生した新型コロナウイルス感染症のクラスターにつきまして、多くの患者様とご家族をはじめ関係者の皆様に、大変ご心配をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。多大なご迷惑をおかけしましたが、クラスターを経験することにより、以前に増して危機意識と感染対策に強い組織となりました。その後、第5波まで経験し、未だ連携機関との対面での情報共有は十分に実施できていない状況にあります。ワクチン接種も進み、今は新たな感染は減少傾向となっておりますが、新たな変異株が急速に拡大する懸念もあり、まだまだ注視が必要です。とはいえ、第6波に備えての3回目のワクチン接種も始まり、内服薬等の効果にも期待がもたれます。

現在医療は細分化・高度化し、当院でも新しい高度な治療法などもできるようになっておりますが、単一の医療機関ですべてを完結させることは不可能であり、今後ますます地域の診療所・医院(かかりつけ医)および地域中核病院との連携が必須であります。新型コロナが落ち着いたら本年度は少しでも顔の見える病院訪問ができればと考えております。また、Webを介した連携強化、情報発信にも努めてまいりますので、Webでの連携をご希望される医療機関は、ご都合のよい日時を当院連携室までご連絡ください。

メディカルサポートセンターでは、これからも、地域医療連携、入退院支援、がん相談支援を3本柱として、日々改善を目指し、職員が一丸となって取り組んでまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。



事務部長
河野 完治

新年明けましておめでとうございます。

昨年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、コロナ禍において無観客試合等若干の不自由は覚えましたが及第点は取れたのではないのでしょうか。そして総理大臣の交代、小室圭氏と眞子様のご成婚、アメリカでは日本に風当たりの強いドナルド・トランプ氏に代わりジョー・バイデン氏が第46代大統領に就任されました。コロナ禍でなければ例年には無い景気高揚と内需の盛り上がりがあったのではないかと思う次第です。当院に置き換えましても、過去最大のDPC係数を付与され、例年同様の患者数を確保出来ていれば、黒字はもちろん相当の収益を上げられたのではと指を銜えてしまうばかりです。が、「去る者は追わず、来る者は拒まず」です。

さて新年を迎え、新型コロナ感染状況に怯えながらの運営ではありますが、本年4月は2年に1度の診療報酬改定期であります。高度急性期・急性期における今改定のポイントとして、(1)一般病棟用の重症度、医療・看護必要度のA項目、(2)特定集中治療室管理料の看護必要度のB項目、(3)急性期入院医療の新たな評価、(4)救急医療管理加算の基準の定量化・明確化などが見込まれており、入院医療の集約化・強化・連携等が算定項目に色濃く反映されるとの情報もあります。当該改定にも柔軟に対応出来る医療機関として、地域の皆様、連携医療機関の皆様とともに、新興感染症にも強い鹿児島圏として再スタート出来たらと願うばかりです。

本年も何卒よろしくお願いいたします。



看護部長
村田 淳子

新年あけましておめでとうございます。

2021年も「新型コロナウイルス感染症」対応に迫られた1年でした。自施設のコロナ患者対応だけでなく、看護師派遣の要請も多くありました。医療体制が危機的状況にあった兵庫県や沖縄県の病院で重症患者対応、県内の宿泊療養所、ワクチンの集団接種など様々な場で多くの看護師が活躍してくれました。派遣要請に快く応じてくれた看護師達は、専門職としての誇りをもって患者様と仲間の看護師達のために働いてくれました。

また、これまでコロナ禍で中止していた市民公開講座を昨年末に再び開催することができ多くの皆様方にご参加頂きました。皆様方が熱心に講演を聴かれる姿を拝見し、感染対策を強化しながら、少しずつ以前のような環境を取り戻していくことの大切さを実感しました。2022年は、コロナを言い訳にせず、コロナ禍でもできることを見出すこと。オンラインを活用した患者サービスの強化など今だからできる新しいことに取り組み、更なる看護の質向上を目指し地域の皆様方に選ばれる病院づくりに努力して参りたいと思います。

皆様にとって本年がよい1年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和3年度

市民公開講座を開催

去る12月11日（土）13時より市民公開講座をJR鹿児島中央駅前の Li-Ka1920 鹿児島ライカ5階南国ホールで開催しました。今年のテーマは「がん・脳卒中・心臓病はまってくれない ～コロナ禍でもきちんと受診しましょう～」。400名以上収容出来る会場でしたが200名までに限定。参加出来なかった方はWebでもご参加頂けるようハイブリッド形式をとらせて頂きました。

コロナ禍が丸2年と長引く中、外出もままならず多くの方が「受診控え」と言う状況に陥っています。しかし、症状の無い病は、コロナ禍であろうと関係なく体を蝕んでいきます。コロナ禍が去る日常を待っていたら治せる病気も重症化してしまいます。

講座策定時は第5波の真っ只中ではありましたが、地域の皆さんにコロナ禍であっても医療機関は安全対策を十分にとっていること、安心して早期に受診して頂くことが肝要であることをお伝えすることが、クラスターを経験し、そして公的医療機関である当院の役割と考え開催に踏み切りました。

講演1は、クラスターを起こした当時の当院の状況をディスクローズし、外部からのウイルス持ち込み制限には限度があること、大事なのはウイルスが持ち込まれてから拡げない、患者様と職員全員が一体となった感染防止対策が必要であること等を厳しい経験を乗り越えたからこそ出来るお話を感染管理部長である大塚先生にして頂きました。

講演2は、体全身に出来るがん、そして男女特有のがん、死亡原因の1位であるがんについて、いかにその症状を早期に発見し、早期に治療することが大事であるか。不幸にしてがんになられた方への就職支援や仕事と治療の両立等相談支援について、内科・外科的治療を駆使してがんの治療に立ち向かっている統括診療部長松崎先生からお話を頂きました。

講演3は脳疾患、特に脳卒中について、脳血管内科部長松岡先生よりお話を頂きました。脳卒中は全国に比し鹿児島県における死亡率は非常に高いこと。脳卒中には決して良くないお酒の摂取量は鹿児島県が全国1位であること等会場からの笑いを誘いながらの講演でした。生活習慣や適度な運動をする等、日頃から生活習慣病に罹らないことが脳卒中の予防に繋がり、少しでも脳卒中を疑う症状があれば、速やかに受診するよう促されました。

休憩を挟み、講演4では日本人の死因第2位の心臓病について。心臓病の中でも心不全による死亡が最も多く、急性心不全の予後は心不全悪化と入院を繰り返し、身体機能が低下し死亡は必至であることからその予防がとても重要であり、罹患した場合は予後管理としてかかりつけ医を持つことが大切だと説明されました。心不全の治療として当院循環器内科では「カテーテルアブレーション」「ペースメーカー治療」「経皮的動脈弁留置術（TAVI）」を行っていること、また今後、「心内留置型循環補助ポンプカテーテル法」「カテーテルによる僧帽弁修復術」を施術予定であることを循環器内科部長高崎先生よりお話されました。

最後の講演5は、高齢化してくると一つの病気だけではなく高血圧症、糖尿病、骨粗しょう症等複数の慢性疾患と付き合わなければなりません。こう言った併存疾患を持った患者様の情報を一元管理することが望ましく、そのためにはお薬手帳、検査結果や血圧手帳を医療機関に持参して頂くことが重要であること。また、人生の終わりの時までどのように過ごすのか。それは周囲の信頼する家族や医師等に自身の価値観や人生観、治療やケアに対する考え方を相談・意思表示・情報共有しておくことで、もしもの時に自身の意図した方向とは異ならないようにするためとても重要であることが腎臓内科医長古庄先生からお話されました。

講演は若干時間を押しましたが、滞りなく5講演を終了することが出来ました。

これもひとえに、来場またはWebで参加頂いた皆様、また多忙にもかかわらず診療を終えてからの資料作成等ご尽力頂いた演者の先生方の賜物と感謝申し上げます。また、当市民公開講座に携わって頂いた職員、会場関係者等全ての方に重ねて感謝申し上げます。

(文責：事務部長 河野 完治)



講演1	13:05～13:35 <small>(質疑応答含む)</small>	コロナ禍での診療～院内クラスターを経験して～	感染管理部長 大塚 真紀
講演2	13:35～14:05 <small>(質疑応答含む)</small>	コロナ禍における「がん」早期発見のポイント	統括診療部長 松崎 勉
講演3	14:05～14:35 <small>(質疑応答含む)</small>	寝たきり予防のための脳卒中对策 ～コロナ禍でも怠らない、脳卒中予防と早期治療～	脳血管内科部長 松岡 秀樹
講演4	14:45～15:15 <small>(質疑応答含む)</small>	高齢者の心不全を考える ～くりかえす心不全と向き合う～	循環器内科部長 高崎 州亜
講演5	15:15～15:45 <small>(質疑応答含む)</small>	マルチモビディティ(多疾患併存)って何？ ～心臓病、腎臓病、糖尿病など多くの疾患との付き合い方～	腎臓内科医長 古庄 正英



第52回

桜島火山爆発 総合防災訓練 (住民避難訓練)

参加の報告

2021年11月20日に県と市が主催した桜島火山爆発総合防災訓練(住民避難訓練)に当院DMAT(医師1人、看護師2人、ロジスティック2人)として参加しました。

今回の訓練も昨年同様島内住民並びに防災機関として、鹿児島県庁、鹿児島市役所、消防、警察、陸上自衛隊(陸自)、海上自衛隊(海自)、海上保安庁(海保)が参加しての大規模な訓練でした。

主な訓練内容

1. 桜島火山防災連絡会の開催による住民避難要領の共有並びに必要な処置対策の実施
2. 「避難完了版」を活用した住民主体の避難訓練
3. 避難確保計画に基づく避難促進施設(観光施設)の避難訓練
4. 防災関係機関等による自助・共助で対応困難な要支援者・残留者等の避難支援及び捜索・救助(ヘリ、海保巡視艇、陸自装甲車等)

当院DMATチームは“避難困難になっている観光施設滞在患者をトリアージし、防災ヘリによる桜島脱出までをサポートする”というミッションを本部から課されました。一連の行動概要を記載します。

- ①本部から指示を受け出動。観光施設で患者に接触。
- ②一次及び二次トリアージにて黄色カテゴリーと判断。患者をドクターカーに収容。近くの臨時ヘリポートにそのまま移動して、実際に離陸準備をしていた消防に患者引継ぎを行う。
- ③消防は患者を防災ヘリに収容して離陸(収容後に本当に離陸したのが驚きでした)。

以上が概略でした。比較的シンプルなミッションでしたが、チーム内での連携だけではなく、本部との複数ある情報共有システム(トランシーバー応答、EMIS入力、オープンチャット入力)に関して、チーム内での役割分担をどのようにするのが問題点として抽出できました。今後この点を克服し、さらに地域に貢献できるチームの構築に邁進していきたいと思えます。

(文責:救急科 田中 秀樹)



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

【地域連携】 箇田・西田・中本・篠崎・迫田・椎原・出口・石原・吉留・馬場・櫻木・田辺・池野・宮崎

【がん相談】 松崎・新川・水元・原田・菊永・杉本

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

